

2011年(平成23年)1月18日(火曜日)

安全・安心の 地下鉄に



選挙定候補)は11日、同駅を訪れ、ホーム柵の設置状況を見て回った。

桜通線は、中村区役所一野並間(17駅)で運行。さらに延長される野並一徳重間が3月27日に開通すると、四つの新駅を加え21駅となる。ホーム柵は各駅に順次整備され、野並駅への設置(7月16日使用開始)で完了する予定。

同線の列車は5両編成中村区役所駅に設置されたホーム柵を視察する(前列右から)たなべ、三輪、中村の各市議、(後列左から)こんは市議、近藤氏

公明ホーム柵の全駅設置を推進

名古屋市は今年、市営地下鉄駅ホームでの線路への転落事故や列車との接触事故を未然に防止する可動式ホーム柵を、桜通線の全駅に設置する。その第1号となる中村区

役所駅のホーム柵が、今月22日から使用を開始する運びとなった。

同事業を推進した公明党市議団の、たなべ雄一、三輪よしひろ、中村みつ

る、こんはのぶおの各市議、近藤かずひろ党県青年局長(いずれも市議

転落や自殺の防止に効果

名古屋市

で、1両に四つの扉があり、これに合わせてホーム柵の扉を上下線各ホームに20カ所設置する(1駅に40カ所)。扉の高さは1・2メートルで、開いた幅は2・6メートル。安全装置として支障物センサー、非常解錠ボタンなどを装備している。事業費は約19・1億円(国庫補助約3・7億円)。

このホーム柵は引き続き、他の地下鉄路線にも導入される方針で、東山線(2011~15年度)、名城線(20年度)で整備が計画されている。

市交通局によると、市営地下鉄駅のホームでの転落事故は07年度に42件、08年度38件、09年度38件を数え、今月5日にも桜通線車道駅で転落事故が発生した。可動式ホーム柵はこうした事故を防ぐだけでなく、自殺防止にも効果を挙げている。

地下鉄の安全対策を前進させてきた党市議団は、ホーム柵の導入を積極的に推進。中でも、たなべ市議は08年11月定例会で、同市では地下鉄上飯田線の2駅しか設置されていない現状を指摘した上で、ホーム柵には自殺防止のほか、車イス利用者や視覚障がい者が安心して通行できるバリアフリーの側面もあるとして、市側に全駅設置への努力を要望していた。

同市議は「ホーム柵設置の反響は大きく、若い女性からは電車を待つている時、ホームから転落する危険性も少なくなり安心との声が寄せられている」と語っている。

市営桜通線で整備進む

よると、市営地下鉄駅のホームでの転落事故は07